

# 東京病院ニュース

## 第5号

2002年7月発行



発行元 国立療養所東京病院

〒204-8585 東京都清瀬市竹丘3-1-1

TEL 0424 (91) 2111 FAX 0424 (94) 2168

ホームページ <http://www.hosp.go.jp/tokyo/>

新外来のホール(左側が受付窓口)



新病棟の全景(この右側には外来棟などがあり、現在工事中)



着々と進む建設工事

## 新しく生まれ変わる

### 東京病院

#### 当院の建築整備

当院の建築整備は平成8年度に始まり、既に病棟(7F建)、エネルギーセンター(2F建)、中央診療棟(2F建)、放射線棟(2F建)は完成し、新病棟への患者移転も平成12年5月に終了しました。

現在は、外来棟(3F建)を建築中で、これも平成15年2月には完成予定です。その後、管理棟、リハビリ棟等の改修工事、不用建物の解体工事、外構整備等を順次行います。

以上で8期(7年間)に及ぶ整備工事は平成15年度末には全てが終了することとなります。

工事期間中、皆様方には騒音等で迷惑をおかけしますが、ご協力よろしくお願いたします。

#### 新病棟の概要

当院は入院病床数560床、外来患者数は一日平均400人規模の病院となります。

病棟は7階建てで病床面積も広く、大型エネルギーセンターを設備し、とくに結核病棟は病室全体が陰圧に設定

され、病室・病棟内の空気的安全性が保たれる構造となっています。エレベーター内は、結核菌を含むすべての細菌を除去できるフィルター(HEPAFフィルター)を介して常に内部の空気を循環させ、安全な環境に維持されています。

外来ブースは23室で、これまでよりも大幅に増えます。新たに4床のICU(集中治療室)も新設され、中央手術部、放射線科にも最新の設備が配備されています。

#### 今後の病院運営

このように、当院は平成16年度の独立行政法人化をひかえ、内外ともに大きく様変わりし、飛躍しようとしています。

当院に示された、基本構想における政策医療の充実強化はもとより、経営改善も大きな課題の一つとなります。

今後は、地域医療施設との連携推進、救急医療への取り組み等も重要な柱となります。

当院が国民に信頼される病院として益々発展するよう、職員一同地道に努力を重ねていきたいと考えていますので、皆様方の益々のご理解とご尽力をよろしくお願い申し上げます。

(病院長 毛利昌史)

## シリーズⅢ 「肺がん」

## 肺がんとは

空気はのどから気管を通り、左右の気管支に分かれ、その先で左右の肺に入っていきます。気管支は肺の中で枝分かれをして細くなり、最後に肺胞という小さな袋の形をとります。この気管支や肺胞に発生するがんをまとめて肺がんと言います。肺がんは世界で最も多いがんであり、日本の統計でも部位別がん死亡者数の第一位になっています。なお肺がんの発生には色々な要因がありますが、喫煙が重要な危険因子であることは広く知られているとおりです。

## 肺がんの症状と診断

肺がんの症状には咳や痰、血痰、胸痛などがありますが、これらは肺がんに限らずに他の肺の病気でもしばしばみられるものです。また小さな肺がんでは全く症状がないことも普通です。このため肺がんの診断には胸部レントゲン写真やCT写真、痰細胞診、内視鏡（気管支ファイバースコープ）検査などを用い、積極的に調べることが必要です。この際、肺の奥の方にできるがんの発見にはCTや内視鏡が、気管支にできるがん（喫煙との関係が深い）の発見には痰細胞診や内視鏡が役に立ちます。

## 肺がんの治療

肺がんの治療では外科療法（手術）、

化学療法（抗がん剤など）、放射線療法が主体であり、免疫療法や遺伝子治療についてはまだ十分な成果が得られていません。治療法の決定においてはがんの種類（小細胞がんとそれ以外の非小細胞がんの2つに分けて考えます）やがんの拡がり（0期～IV期に分けます）が大切で、年齢や身体の状態に加え、患者様の意志も尊重されます。一般的にはII期までの肺がんでは外科療法が、III期では化学・放射線療法や外科療法の組み合わせが、他の臓器への転移があるIV期では化学療法が行われます。ただ肺がんの予後は胃がんや大腸がんよりも悪く、早い病期のうちに正確な診断と治療を行っていくことが望まれます。

## 当院における肺がん治療

当院では毎年120名程度の新規の肺がん症例を経験していますが、手術を行う呼吸器外科医、化学療法を行う呼吸器内科医、放射線療法を行う放射線科医の協力によって、あらゆる病期の肺がんに対応した治療を行っています。この他、患者様の体の負担が少ない胸腔鏡下手術、新しい抗がん剤（治療）、放射線の多分割照射、気管支動脈内抗がん剤注入術、レーザ治療などの専門的治療法もしばしば選択されています。また、呼吸器疾患の専門病院でもある当院では、もともと肺に病気がある患者様にとつた肺がんの診療経験も豊富です。現在当院に

通院されている患者様で肺がんが心配な方はぜひ主治医にご相談下さい。なお、当院では以前より文書によるインフォームド・コンセントを行っており、専門外来や新患外来ではセカンド・オピニオンの依頼にも対応しています。

（内科医長 田村厚久）



（当院前庭の風景）

電話アクセスなどが  
楽になりました！

○「当院に電話をしても、なかなか繋がらない」という患者様方のご意見が多くあり大変ご迷惑をおかけしておりました。このようなことから、当院代表番号以外に、ダイレクト・イン・ダイヤル（DID）を設置いたしました。番号は「0424-91-4134」です。ここに掛けていただいで、内線番号をプッシュしていただきますと、所定の場所等にダイレクトに繋がる仕組みとなっております。ど



（ポケットサイズのガイドブック）

うぞご活用下さい。  
（但し、業務の関係もあり、一部は繋がらない箇所もあります）  
○また、患者様サービスの一環として、医療関係情報の迅速な伝達は生命線です。このため職員間の情報交換の主流である、院内PHSの機能強化を図りました。具体的には、短縮ダイヤルの大幅導入を図ったこと、院内電話機の効率的転送システムを整備したこと、外線に直接アクセス出来るようにしたことなどがあります。  
○以上の事を行いました。これらにより効果的に活用していただくため、「ポケット、テレホンガイド」を作成いたしました。すなわち、共通の情報ソースを整備したものです。PHSとともにポケットの中にも携帯し使用するものであり、これに収録されている内容は、院内電話、PHS、短縮、ダイレクトイン、とつさの場合の連絡先番号などが網羅され、使用する者の視点で編集されております。  
○これらにより、当院への電話の繋がりが、院内情報の迅速化などが確実に改善されております。

（患者サービス委員会）

# シリーズ・ドクター紹介

①診療案内 ②出身地 ③趣味及び特技 ④モットーとする言葉 ⑤好きな食べ物 ⑥その他メッセージ



①肝臓内科・消化器内科  
②岐阜県岐阜市  
③古美術鑑賞  
④一期一会  
⑤何でも食べます。  
⑥肝臓病でお悩みの方、ご相談下さい

とき た はじめ  
時 田 元  
(消化器科)



①消化器科・乳腺外科  
②東京都新宿区  
③スキューバダイビング・バイリンガル(韓国語)  
④サランヘヨ!(愛は地球を救う……なんちゃって)  
⑤やっぱり肉かな  
⑥手術だけでなく、患者様の心のケアを大切にしていきたい

はん い る 一 秀  
韓 一 秀  
(消化器外科)



①放射線診断全般  
②千葉県松戸市  
③パソコンにはまっています。  
④誠実  
⑤きれいなものはないです。  
⑥放射線診断に関して何でもご相談下さい

ほり べ みつ こ  
堀 部 光 子  
(放射線科)





①呼吸器内科  
②長崎県長崎市  
③ラーメン食べ歩き  
④特になし  
⑤ラーメン  
⑥呼吸器病でお困りの方、ご相談下さい

ば ば もと お  
馬 場 基 男  
(呼吸器科)



①呼吸器科  
②東京都小平市  
③絵画鑑賞  
④特にありません  
⑤ケーキ類  
⑥木曜日の予約診の患者様にはお待たせして申し訳ありません

すず き じゅん こ  
鈴 木 純 子  
(呼吸器科)

①呼吸器外科全般  
②神奈川県秦野市  
③ドライブ・自転車競技・音楽  
④一期一会  
⑤焼き肉(強いて挙げれば)、好き嫌いなし  
⑥患者様中心の医療を心掛けています。手術の適応・検査・処置、患者様の利益を考える医師を目指しています

はや かわ のぶ たか  
早 川 信 崇  
(呼吸器外科)

**職場運動実施中!**

「ホウ・レン・ソウ」  
「報告」・「連絡」・「相談」

早さ(新鮮)がきめて!



★**職場運動の実施**★

今年度(平成十四年度)の職場運動のテーマは「ホウ・レン・ソウ」です。

ホウ・レン・ソウは「報告」・「連絡」・「相談」の略で俗に「ホウレンソウ」と呼ばれています。円滑な業務遂行の基本として、人生の諸先輩方より代々受け継がれ、今でも重要な「ことば」として日々活用されているところです。

過日開催された厚生労働省主催の施設運営会議に於いて、様々なご指導を受けたところです。具体的には

- ・企画立案の重要性
- ・教育指導の徹底
- ・組織として動く重み
- ・胸襟を開いた人間関係の構築

など、各般に亘り適切な指摘・指導が述べられました。

(聴取している方は、思わず我が身を振り返ったと思われまふ)

さっそく、当院に帰り、各種会議を開催し、会議趣旨を述べたところでありました。また、業務改善委員会に語り、同様の趣旨を述べ本年度の職場運動として、これらの基礎となる昔くたく新しい「ことば」「ホウ・レン・ソウ」運動を協議し展開を図ることとなりました。

職員一人一人が「ホウ・レン・ソウ」を意識し、職場運動として行動する事により、今後予定されている、①救急医療への参加、②新外来棟のオープン、③ICU病棟の効率的運用など、ひいては、④平成十六年四月の独立行政法人化に向けた準備が確実に実施できる事と思っております。全職員が「ホウ・レン・ソウ」を職場運動として盛り上げていただきたいと思っております。

※広辞苑によれば「ホウレンソウ」は「菠薐草」と書き、アカザ科の一・二年生葉菜、雌雄異株、イラン原産とされ、わが国には十六世紀頃に渡来、とある。

## サッカーの祭典 「ワールドカップ」 を観戦して

4年に一度行われる「ワールドカップ」が今年日韓共催で行われ、これは21世紀初めて、また、アジアで開催されるのも初めて、日本と韓国という2つの国で行われるのも初めてという、初めてづくしで、世界中が注目する大会となりました。

5月31日の開幕戦、韓国ソウルで開催されたフランスVSセネガル戦を皮切りに一ヶ月間、出場32ヶ国の中からわずかに1チームだけが「ワールドカップ」を手に行けるといって、サッカーファンにはたまらないイベントが開催され、特に日本代表の試合は皆様テレビに釘付けとなったことと思います。

### カメルーンVSサウジアラビア

私の希望では、日本代表のゲームを観戦したかったのですが、6月6日に埼玉スタジアム2002で行われたグループEのカメルーンVSサウジアラビアという非常に渋いゲームを観戦いたしました。

カメルーンは皆様方もご存じのように、大分県中津江村になかなか到着せず、関係者及び地元の人々をハラハラさせたという事で話題になったチームで、サウジアラビアはアジア代表ということで、ぜひ頑張ってくださいという対戦となりました。

### サポーターの熱気がすごい！

浦和美園駅からスタジアムに向い、スタジアムに入った瞬間、きれいな緑色の芝生と試合を待ちきれない両チームのサポーター及び観客の熱気が私の目に飛び込んできました。やはりテレビで見



(埼玉スタジアム2002にて)

るのとは違い、その場にいただけで鳥肌が立ってきました。

試合は、カメルーンはJリーグで活躍されたエムボマ選手を中心に高い身体能力を生かし、一方のサウジアラビアは、アジアNo.1といわれているゴールキーパーのドライエ選手を中心とした守備から速攻で得点を狙う展開となり、最後はエトー選手が決めた一点をカメルーンが守りぬくという試合となりました。

### 4年後はドイツ開催

今回の「ワールドカップ」という一大イベントを観戦して、サッカーというスポーツを通じて世界中がひとつになった空間に自分も入れたような気持ちとなり、とても幸せを感じました。そして、日本代表も初勝利、決勝トーナメントへ進出し、見ている私達に興奮と感動を与えてくれました。

4年後の2006年ドイツで開催される「ワールドカップ」の試合もスタジアムで観戦できたらと思います。

(庶務課人事係 村上功)

## 「在宅酸素(HOT)の会」は 第15回をむかえました！

5月23日(木)に第15回「在宅酸素の会」を開催いたしました。

天候にも恵まれ、84名と例年より多くの方がご参加くださいました。少しでも在宅での生活にお役に立てるようにと願いを込めて、2ヶ月前からパンフレットや会場の準備など、あれこれ考え企画いたしました。

毛利院長の開会の挨拶に始まり、倉島臨床研究部長の「非定型抗酸菌症とは何か」リハビリ学院の中山教官による「呼吸困難を和らげる方法」の講義や5東病棟看護師の「食事中的SPO2の変化」の研究発表を行いました。その後は、薬剤師や栄養士・ケースワーカーも参加しての懇親会を行いました。参加者の皆様は熱心にメモをとったりしておられ、また意見交換も活発でした。最後に藤本看護部長の挨拶で閉会をしました。この会の講義などの内容は※「もみじ会報」に掲載されます。

今後、皆様のお役に立てるよう「在宅酸素の会」の充実を図ってまいります。と思っています。ご参加くださいました患者様、ご家族の皆様ありがとうございました。また、秋に企画致しますのでご参加をお待ちしております。

(外来看護師 平山恵)

※「もみじ会」とは全国呼吸機能障害者の団体であり随時、会報を発行しております。



(患者様との交換風景)

## 精度管理は 検査技師の命

昨年10月、第35回日本医師会主催臨床検査精度管理調査は国立病院71、療養所13を含む全国2729施設が参加し行われました。調査内容は生化学26、免疫血清13、血液・凝固8の合わせて47項目であり、それぞれ項目ごと測定法別、測定装置別等に分類され評価が行われています。各項目の評点方法について簡略に記すと、平均値を出しこれを大きくハズレたものを除外し、再度平均値を算出しこれを基準に1SD(標準偏差)以内をA評価(5点)、2SD以内をB評価(4点)、3SD以内はC評価(2点)、3SDを越えている

ものをD評価（0点）としています。  
**当院の成績は？**

さて、当院の成績を遡って見てみますと、平成10年度98点、11年度97.4点、12年度98.7点、13年度99.6点という結果でした。この結果に対する全参加施設内での位置付けについては大変興味を引くところですが、精度管理調査の目的は「測定法の統一化」「基準値の統一化」を図り各医療機関同一のモノサシで数値が見られるようにすることであり、この目的からもコンテスト色の強い施設のランク付けは問題が多く実施はしておりません。ただ、国立病院・療養所内においては評価の一覧があることから、あえて当院を取り上げますと、202施設中毎年上位15番目前後に位置し、昨年度においてはB評価は1個であとは全てA評価でした。評点も初めて99.6点という高得点を取得し大手検査センター数社の評価表をも上回っています。

**日頃の努力の大切さ**  
私自身今までに6施設の配置換えをしました。今回このような評価は初めてであり、表彰制度のあった15年前であれば医師会から表彰は間違いのないものと思われまます。

この好結果の裏には日頃技師一人ひとりが、機器のメンテナンスの徹底、検体や管理血清の慎重な管理、データの詳細な分析など検査精度に対する徹底した姿勢があったことを思うと、今更ながら普段における努力の大切さを思い知らされます。今後においても、検査技師の生命線は精度管理であることとを胸に、精度に裏打ちされたデータ

の提供を心掛けなければなりませんし、それが検査科にとって一番の患者サービスであると思います。  
(臨床検査技師長 田中 司)



(検査棟の屋上で)

**「第8回喘息教室」を開催**

6月18日(火)雨がふりしきり、またワールドカップサッカー日本戦があるなか外来ダイケア室において「喘息教室」を開催しました。  
内容について簡単に紹介します。

**田中ドクター「喘息のベストコントロールを目指して」**

- 3つのキーワード①気管支の炎症
- ②気管支の刺激に対する過敏性
- ③気管支の収縮をあげ喘息発作のおこる仕組みと治療について

**永井医長「タバコの害と禁煙のすすめ」**  
現在喫煙患者が受けている医療費は

1兆6千億円にもなる。喫煙は癌になるリスクが非常に高いこと。禁煙治療について

**中山教官「リラクゼーション」**

腹式呼吸・口すぼめ呼吸、運動療法の効果

その他、外来看護師による吸入薬・ピクフローメーターの使い方の実演があり最後に川辺医長を中心とした懇親会をしました。

参加者より体験談や活発な発言があり「参考になった」「家人に禁煙をすすめたい」など参加者の皆様に満足していただけたようです。

次回は、秋に企画しますので大勢の皆様のご参加をお待ちしております。  
(外来看護師 齋藤純子・西村知子)



(教室風景)



(実演する看護師)

**悲願の表彰台**

平成14年度自衛消防訓練審査会において、当院女子隊(看護師)が準優勝いたしました。

清瀬市消防区は「強豪ぞろい」であり、ここ数年努力するも、表彰までは今一步の状態が続いておりましたが、本年みごと準優勝の栄誉に欲することができました。

来年こそ優勝を！  
(三隊出場しましたが、他二チームも大健闘)



(健闘する自衛消防隊)



## 「看護の日」記念行事

### 各種業事を企画

5月2日ナイチンゲールの誕生を祝して、「看護の日」が制定され、その週は多くの病院で看護にちなんだイベントが開かれています。当院でも5月9日に「看護の日」記念行事を行いました。午前中は外来患者様を対象に外来から検査棟への渡り廊下と検査科のロビーにて「健康チェック」と「体験コーナー」―家庭で出来る救急法―、「お茶のサービス」を行いました。健康チェックでは、身長・体重・血圧・経皮的酸素飽和度・体脂肪・血糖・視力測定を行い、特に経皮的酸素飽和度・体脂肪・血糖・視力測定は市の検診などで普段は測定できないものをしていただき、ありがたかったと好評でした。

### 体験コーナーでは

体験コーナーでは、救急時の対応のデモンストレーションのみではなく、参加者から「食べものが詰ったらどうしたらよいのか?」や「てんかん発作を起こしたらよいのか?」などがあるのだがどうしたらよいのか?」などの質問を直接いただきました。また、これらの回答を今後に役立てていきたいとか、参考になったなどの感想を頂くことができました。

### 盛大なミニコンサートの開催

午後には多くの患者様、ご家族の方に参加していただいたミニコンサートを行いました。はじめにボランティアで地域活動を行なう女性コーラスグループの「コロダモーレ」(地元有志による同好会)の皆さんによるコーラスを行い、その次に、参加した

方と全員で「四季の歌」や「ふるさと」などの歌を歌いました。「生の演奏を聴くのは久しぶりだった」「昔の歌が懐かしくて涙が出た」「何年も故郷に帰っていないので故郷を思い出して涙した」などの感想を聞くことができました。私たちも皆様に少しでも楽しんでいただきましてうれしく思っています。

### まとめ

全体としての意見では、「看護の日があることを初めて知った」「毎年楽しみにしたい」「看護師に対して理解したい」「毎年開いてほしい」などのご希望がありました。これからも患者様、家族の方々、近隣の方々に喜ばれる場を提供していけたらと考えています。

(7東病棟 横山裕子)



(盛大な記念行事)

## 医療安全管理室の設置

医療事故が報道されない日はない昨今です。そこで医療事故を防止し患者様の医療を安全に行うことを目的として、全国の国立病院・療養所83施設に医療安全管理室が設置され、当院も4月に開設されました。管理室に専任の担当者がおかれ、その役割は、事故やニアミスのような医療の現場で起きてはならない事を少しでも減らすよう、また、起きないよう原因の究明や調整を行い職員に知らせ、より注意深く仕事が行われるよう環境を整える事が役割です。医療安全管理室担当者がどのように活動していくかが、今後の病棟の現場の安全性が高くなるかどうかを左右することになると考え、精一杯動き回らなければと思っております。また、安全のために必要と考えられるようなアイデアも是非いただき、広い角度からの安全性の確保に努めていきたいと考えておりますので、ご理解の上、ご支援をよろしくお願いいたします。

(医療安全管理者 石川清美)



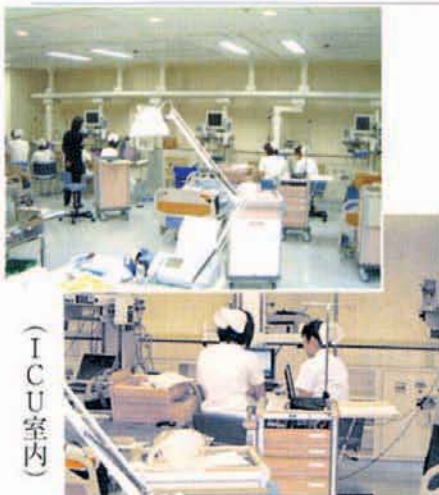
(報告書のとりまとめ作業中)

## ICU病棟が7月より稼働

ICU(Intensive care unit: 集中治療室)4床が7月より稼働いたしました。ICUは急性期の患者様の容体を24時間連続して集中監視、治療する治療室です。

例えば、大きな手術後、容体が不安定な時期の患者様が短期間入室して、全身管理を出来る医療スタッフのもとで治療を受ける場所です。それに対応する設備も必要となりますが、すでに最新式のものが配置されました。医療スタッフの訓練も終了しスタンバイいたしました。このほかにも、呼吸不全の急性期や消化管出血などの消化器疾患、肝不全状態による肝性昏睡など対象になる疾患は多数あります。24時間体制ですから病気の急変にも対応出来ることとなります。当院の専門とする診療科を横断的にサポートして、患者様に対して安心で、しかも、より高度・先進的医療を提供できることと思えます。

(診療部長 原田英治)



(ICU室内)

## 睡眠中の呼吸異常 眠っていると呼吸が止まる?!

眠っている最中に呼吸が止まる、こんな方を見かけませんか？眠っている間のことは自分で気づかないもの。ご家族や旅行中の同室者などが発見することの多い病気、これが睡眠呼吸障害です。

### 寝ている間の出来事？

睡眠中の呼吸異常はさまざまです。一番わかりやすいのがいびき。ピタッと息が止まって十数秒、苦しくあえいだ後息をふき返したかのように「ガガッ」と強いいびき、これが睡眠中くり返し起ります。この睡眠時無呼吸症候群は日本人の3%にみられるとされています。糖尿病が10%、気管支喘息が5%と言われていますから、糖尿病の方を10人ご存知だったら、あるいは喘息の方を5人ご存知だったら、睡眠時無呼吸症候群の方を3人知っているもまったく不思議ではないこととなります。これだけの患者数がありながら割と知られていないこの病気は、最近10年くらいでやっとなりにクローズアップされてきました。なぜなら糖尿病は血液検査や尿検査などの検診、喘息は咳やたんなどの自覚症状により見つけることができますが、睡眠呼吸障害の場合は寝ている間の出来事なので自身ではほとんど気づかず、診察室で寝ていたかどうかにもいきません。これが発見の遅れにつながっていたと考えられます。太った方が多いといわれていましたが、下あごが小さいなどの骨格的問題や扁桃腺が大きい

などのどの構造上の問題で起こることも最近では知られてきました。

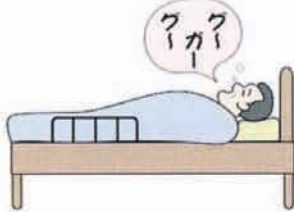
### 夜間呼吸不全って何？

睡眠時無呼吸症候群の他にも、眠ることによっていびきを伴わずに呼吸の弱くなる方や呼吸を休む方がいます。この夜間呼吸不全は、肺気腫や肺結核後遺症の方など慢性肺疾患を持つ方に多く、日中の呼吸努力の結果として胸の筋肉が疲れてしまう呼吸筋疲労からおこると考えられています。

見た目では眠っているように見えていても、自分では目覚めた気がしなくても、呼吸が止まったり弱くなったりするたびに睡眠と覚醒を脳の中で起こした結果、意識に残らない脳波上の目覚めが起こり睡眠の分断として睡眠そのものを障害します。症状はこれと言ったものがなく多岐にわたりますが、夜間頻回に目が覚める、朝起きたときに頭がボーっとする、日中眠い、寝ても寝ても疲れがとれないなどの睡眠不足感や慢性疲労感が代表的です。また、高血圧や心臓病、糖尿病、高脂血症、脳卒中などの生活習慣病が合併症として多くみられます。睡眠もひとつの生活習慣と考えれば、睡眠呼吸障害が生活習慣病の温床となることも十分うなずけます。

### 当院での診断治療

当院では2泊3日人間ドック形式の入院によって、睡眠中の脳波検査を主体とする諸検査で総合的に診療します。睡眠中の呼吸異常に目を向けることにより、覚



醒中16時間の内科診療だけでなく、睡眠中8時間の「夜の内科」という新しい概念を加え、患者さんの24時間を診療する環境を提供できるものと考えています。  
(睡眠呼吸障害(いびき) 外来担当 高橋進)

## 東京病院の史跡

### 出発点

#### それは小さな杭

花屋さんに行く道沿い左側、入り口の手前にあり目立たないのですが「出発点」と書かれた小さな杭にお気づきでしょうか？ 根元が朽ちていて、倒れないように木に針金で固定してあります。かつて結核が長期にわたる入院安静治療を余儀なくされた時代、そして外科療法がはじまった頃の、歩行療法のアプローチの目印です。それは文字どおり、社会復帰に向けての「出発点」でした。はじめは現在の社会事業大学グラウンドの南側にあった寿講館の東側にあり、その後現在の場所に移ったそうです。

#### 歩くことが原点

外気療法を行っていた患者様を中心に「出発点」に集合して自分で脈拍を数えて軽い体操の後、それぞれ決められた距離を歩き、歩行後の脈を記録していました。1日100m往復からはじめ、1km往復まで距離を伸ばして卒業して、次の段階に進むという大変重要なものでした。当時、作業療法をはじめ

ると菌が止まっていたのが再び微量排菌が始まることやよくあり、大きな課題であったようです。

### 社会復帰への出発点でもあった

リハビリテーションは3段階でA歩行療法、B作業療法、一部の人はC補導療法(薫風園での職業訓練的作業療法)と順を踏んで社会復帰に向けていきました。ちなみに作業は農耕、園芸、畜産などで、1953年には乳牛1頭、豚50頭、山羊13頭、鶏50羽、兎20羽がいたという記録があります(国立東京療養所概況1953)。作業は1日1時間からはじめ6時間までこれも厳密に設定されていました。

療養所のリハビリの原点として保存されている杭です。いちど足を運んでみてください。

(呼吸器科医長 川辺芳子)



(出発点と書かれた小さな杭)



# 外来診療一覽表

平成14年7月1日現在

## ■ 一般外来

診療科名	月	火	水	木	金	
(新患者様については、原則として各日の当番医が担当します。)						
内科	呼吸器内科	四元・町田 益田	馬場・赤川 永井・原	毛利・四元 倉島・長山 斉藤	川辺・鈴木 田中・高橋 宮本	河谷・田村
	消化器内科	上司・村田	福井	時田	原田	矢倉
	循環器科	瀬川		瀬川		
リハビリテーション科 (脳卒中亜急性期を中心)	新藤	新藤	西尾		荒尾	
整形外科				岡		
神経内科	城山	栗崎	栗崎	栗崎	当番医	
呼吸器外科(肺癌、肺気腫等)	当番医	相良・米谷	当番医	当番医	林・早川	
消化器外科・一般外科	当番医	仙波・後藤	仙波・黒木	当番医	仙波・後藤・韓	
眼 科	神谷・南波	神谷・南波	神谷	神谷・南波	南波	
放射線科 (治療)	三上 堀部	三上	三上	三上	三上	
放射線科 (診断)						

## ■ 専門外来 (当院独自の質の高い診療を推進しております。)

診療科名	月	火	水	木	金
肝臓外来	上司・村田 町田(午前)	福井	時田	原田	矢倉・田中(午後)
呼吸器関係外来	息切れ				
	喘息		当番医(午後)		
	禁煙				永井(午前)
	肺腫瘍外来				田村(午前)
	間質性肺炎		赤川(午前)		
	非定型抗酸菌症			倉島(午前)	
いびき				長山・町田(午前)・高橋	
手掌多汗症		相良・米谷			林・米谷
気胸		相良・米谷			林・米谷
大腸ガン外来		仙波(午後)			新海・韓(午後)
糖尿病外来				矢倉(午後)	
緩和ケア外来(がん等)					三上(午前)

受付時間 8:30~11:00 診療時間 9:00~17:00

休診日 土・日・祝祭日および年末年始(12月29日から1月3日)

代表電話番号 0424-91-2111

内線番号がおわかりの方は0424-91-4134  
(ダイレクト・イン・ダイヤル)をご利用下さい

## 東京病院概要

### 環境

当院は、東京都の西北に位置し、周  
囲には多くの雑木林が点在し、閑静  
で空気清澄な武蔵野の面影を今も残す  
恵まれた自然環境にあり、交通至便で医  
療施設として最適な環境にあります。

### 診療内容

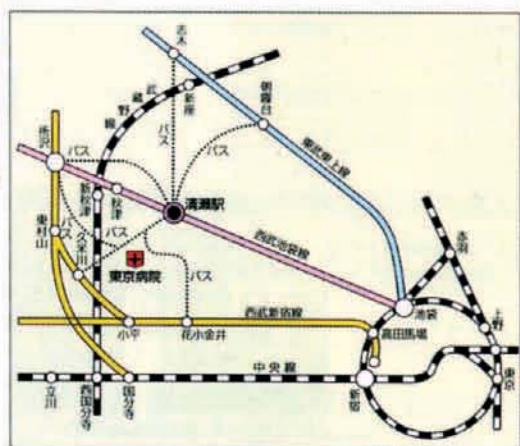
- 呼吸器科
- 消化器科(肝臓疾患)
- 循環器科
- リハビリテーション科
- 呼吸器外科
- 消化器外科
- 神経内科
- 内 科
- 外 科
- 眼 科
- 放射線科
- 麻酔科
- 整形外科
- 緩和ケア科

### 病床数

610床(一般406床・結核200床  
ICU4床)



## 当院の位置



## 交通



- 西武池袋線 清瀬駅南口下車(池袋から準急25分)。清瀬駅南口からタクシー5分。徒歩20分。(西武バス)
- 南口②番乗り場から久米川駅行・下里団地行・花小金井行・所沢東口行に乘車、五ツ目(約5分)の東京病院前下車。
- 武蔵野線 新秋津駅からタクシー5分。徒歩20分。
- 西武新宿線 久米川駅、花小金井駅、所沢駅東口から清瀬行に乘車、東京病院前下車。
- 東武東上線 志木駅から清瀬行のバス路線があります。